

# 芸文だより

第34号

平成29年 3月15日  
村山市芸術文化協議会



## 第52回村山市芸術祭シンボル事業 家田荘子氏講演会



第五十二回村山市芸術祭シンボル事業「家田荘子氏講演会」が十二月十一日、甌葉プラザホールを会場にGOGO!むらやま夢大学市民委員会と共催で開催されました。家田荘子さんは、女優やOなど十以上の職歴を経て作家になり、「極道の妻たち」

講演は、「自分らしい生き方

⑩や「女性のための般若心経」など多数の著書があります。近年は高野山真言宗の僧侶として、高野山の奥の院や総本山金剛峯寺で法話もっています。

方々を「いまこそ一歩前へ」をテーマに語られ、家田さんの作家を目指すまでの経緯や、ノンフィクション作品を執筆する際の取材の事実談や、自分を見つめなおす機会の大切さなどを伝えていました。長時間の講演でしたが、来場した皆さんは、興味深いお話に熱心に聞き入っていました。

当日は、大雪にもかかわらず大勢の方が会場に詰め掛け、講演終了後に行われたサイン会でも、家田さんと近くで触れ合える貴重な機会に多くの方が列を作りました。

GOGO! むらやま夢大学2016  
第52回村山市芸術祭シンボル事業

### 家田荘子氏講演会

演題  
自分らしい生き方を  
～今こそ一歩前へ～



家田荘子 (いまだ しょうこ)  
\*作家・劇作家・脚本家  
1943年、東京都中央区生まれ。早稲田大学文学部卒業。1965年、NHKに入社。1970年、NHK東京放送局で放送番組制作。1975年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。1980年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。1985年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。1990年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。1995年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。2000年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。2005年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。2010年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。2015年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。2020年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。2025年、NHK放送文化研究所で放送番組制作。



## 第五十二回市芸術祭に ついて思ったこと

村山市芸術文化協議会

会長 須藤 正義

第五十二回村山市芸術祭は、十月二十七日に芸術文化功労者表彰式・開幕パーティを皮切りに約一カ月半にわたり、展示・公演部門に加盟団体はもとより芸術文化に取り組み

れている各種サークルの参加を得て終了しました。

少子・高齢化の進行、深刻な後継者不足を抱える厳しい環境の中、日夜研鑽を続けてこられましたことに対し心から敬意を表します。

私は会期中ほとんどどの公演・展示を観せてもらいました。特に感じたことは、観客数に大きなばらつきがある事でした。分野によつては、もつと観に来てくれるように働きかけが必要ではないだろうか。自分が好きなものを自分が演じて（又は展示）自分たちだけで楽しめばよいというものではなく、なるべく多くのの人たちに観てもらふことによつて向上していき、広がっていくものだと思うからです。

反面、昨年は文化の殿堂として昭和四十一年に落成した

村山市民会館五十周年記念にふさわしく、多彩な事業が繰り広げられました。特に、山形交響楽団ユアタウンコンサート村山公演では名誉市民の村山千秋さんが思い出の「フィンランディア」を指揮、復興応援ソング「大地の祈り」を市出身のソプラノ歌手齊藤智子さんとともに地元合唱団「フェブリエ」が歌い上げ、満席の観客に深い感動を与えてくれました。また、シンボル事業としてGOGO！むらやま夢大学市民委員会との共催で実施した「家田荘子氏講演会」その他の記念事業において、いずれもほぼ満席という盛況のうち

に終了しました。このことは、市当局と芸術文化協議会との連携を図り、芸文会員のご尽力と市民の皆さまのご協力があったることと改めて深く感謝と御礼を申し上げます。

市民の皆さまどうぞ、今後とも芸術文化活動に深いご理解とご支援をお願い申し上げます。

## 村山市民会館 開館五十周年事業を開催

市民の皆さんの芸術文化活動の拠点として長年愛されてきた市民会館は、平成二十八年年度に開館五十周年を迎え、それを記念して多彩な事業が開催されました。

九月には、山形交響楽団ユアタウンコンサート村山公演「大地の祈りコンサート」を開催しました。

第一部では、村山名誉市民で山響創立名誉指揮者の村山千秋氏の指揮によるシベリウスの曲を演奏しました。

第二部の最後は、市出身のソプラノ歌手齊藤智子さんと混声合唱団フェブリエと村山女声コーラスの皆さんによる



大地の祈りコンサート

合唱で復興応援ソング「大地の祈り」が披露され、満員の客席から大きな拍手が沸き起こりました。

十月には「森山良子コンサート」が開催されました。

森山さんは市民会館の開館と同じ、デビュー五十周年の記念コンサートツアーで、デビュー曲の「この広い野原いっぱい」、「涙そうそう」や「さとうきび畑」など数々のヒット曲のほかポップスやクラシックの曲などを熱唱しました。透明感のある歌声に来場者も大満足の様子でした。

十一月は、NHK・Eテレ「俳句王国がゆく」の公開収録が行われました。

司会はU字工事のお二人、主宰に坊城俊樹さん、ゲストにはビートきよしさん、吉木りささん。

ご当地俳句バトルでは「最上川三難所」・「板そば」・「居合」をテーマに句を詠み、俳句王国チームと村山チームが対戦しました。村山チームには大場ひろみさん（市華道連盟会長）が出演し、林崎居合保存会の皆さんによる居合

の演武も披露されました。また、「小さな子規さん見いっつけた」のコーナーには袖崎小学校の児童も登場し、俳句や将来の夢を発表しました。



「俳句王国がゆく」公開収録

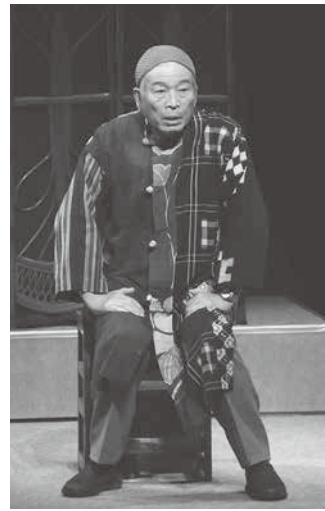
二月には、「千住真理子ヴァイオリン・リサイタル」を開催しました。

国内外で活躍する千住さんは愛器ストラディヴァリウス「デュランテイ」と共に「感傷的なワルツ」、「チャルダッシュ」などのクラシックの名曲に加え、「早春賦」、「故郷」といった日本の曲を演奏しました。

ヴァイオリンとピアノが奏でる美しい調べが、観客の皆さんを魅了する大好評の演奏会となり、五十周年記念の事業を締めくくりました。

# 「実はあの時……」

からす笑劇場 朝鳥奉公



落とし、診断は親ゆび複雑骨折全治二カ月とのこと。「うそ!?!」と思いつつ医者に、「実は、六日後に舞台の本番なんです。舞台に立ってますか?」と聞きます

皆さまの御支援、御協力をいただきまして、「あの日は暑かった」の幕を無事下ろすことが出来、ホッと胸をなでおろしています。

実は稽古中がテンヤワンヤ、満州の寒さを実感したいと天童や山形の製氷会社をたずねて歩き、氷点下二十度の部屋に入れていただきその寒さになつたり、装置、衣装、歌、チケット売りと、あれもこれも、何から何まで一人で作らねばならない一人舞台、猫の手も借りたといは正にこのこと。自分の中に時間の足りない心のあせりがあったのでしよう、不覚にも本番六日前の大雪の除雪中に鉄板を右足親ゆびに

と「痛いよ、痛いけど自分が我慢出来るならやればいい。」とのこと。不思議です。ねえ……それを聞いた途端に「やれる!!」……でも痛いのなんの、本番は冷や汗ものでした。えっ?今?今はその痛みも遠ざかり、「さて今年は……」と新しい夢を追って

真下慶治記念美術館が、平成二十八年一月一日より最上川美術館に名称を変更したことを記念し、四月十五日から六月二十一日まで、市内に所



## 最上川美術館 改称記念

### 村山市名誉市民「小松均展」

蔵されている作品を集め、「郷土所蔵家の作品 村山市名誉市民 小松均展」を開催しました。

日本画家として大成し、文功労者となった小松画伯は、生まれ育ったふるさとの川、最上川の源流から河口までの全ルートを描くことを生涯の

念願とし、壮大な連作「最上川シリーズ」(未完)に取り組まれるなど、最上川に深いゆかりのある方です。

会期中には、「雫の瀬」「三ヶ瀬」などの最上川三難所をはじめとする最上川を題材にした力強い作品や、「赤富士」「金魚」などの色鮮やかな作品、計二十七点を展示し、県内外から千七百名を超える来館者を迎えました。

最上川美術館への名称変更のみならず、村山市、最上川名誉市民 小松均を広く発信する意義の深い作品展となりました。



『小松均展』オープニング

## 最上徳内記念館 最上徳内生誕二百六十年を祝う

最上徳内生誕二百六十年を記念し、十一月二十四日、蕨葉プラザホールにて最上徳内サミットが開催されました。同時に北方領土返還要求山形県民大会も開催されました。

徳内サミットは、パネルデイスカッションのパネラーに北海道厚岸町長、青森県野辺地町長、東京都台東区都市交流課長、八王子市から徳内研究家、村山市長の五人、コーディネーターに最上徳内に

ついでにの著書もある歴史作家の乾浩氏を交え、各行政地域の紹介から徳内との関連、徳内の功績等が語られました。

会場は厚岸町民号でお越しの方々、北方領土返還要求山形大会に出席された方々、村山市民等で大いに賑わっていました。

最上徳内記念館では、生誕記念として「徳内とシーボルトが研究したアイヌ民族展」が開催されました。徳内に縁

のある地域に関わる資料や、シーボルトと共同編纂したアイヌ語辞典、樺太アイヌの犬ソリの絵図や、龍の刺繍の衣服などが展示され、来館者は興味深い様子で見入っていました。



『徳内サミット』パネルデイスカッション

# 第52回村山市芸術祭

第五十二回村山市芸術祭は、十月三十日の「津軽三味線・民謡・舞踊フェスティバル」を皮切りに、十二月十七日のからす笑劇場「語りライブ」までの一か月半、村山市民会館を主会場に開催されました。趣向をこらしたステージや展示に訪れたお客様は、芸術の秋を満喫していました。



聴衆を魅了した「村山混声合唱団フェブリエ」



親父パワー全開！SKIPスーパーライブ



温かい作品が並んだ手芸作品展



厚岸との合同写真展



大作が出品された芸術祭美術展



満員の股旅舞踊チャリティーショー



艶やかな日本舞踊公演



基点焼陶芸教室作品展



立派な枝ぶりを披露したさつき盆栽展



美しいメロディを披露



にぎわった芸術祭お茶会



個性が光る書の色紙展



秀逸な作品が展示された書道展



甘い香りに包まれた五流派合同のいけばな展



ハーモニーが響いた北村山吹奏楽団秋のコンサート



労作が並んだ人形・押絵展

# 演劇への誘い

劇団赤ひげ 吉田 峻太郎

「演劇」というものに出  
会って十年ほど経ちます。

現在は劇団赤ひげの団員として舞台上に立っていますが、一つの舞台を作り始めるときの「今回はどんな舞台になるんだろう」というワクワクは毎回褪せることなくやってきます。多種多様な登場人物になりきって物語を進めていく過程は、一種の「変身体験」や「異世界旅行」に近いのかもかもしれません。作中の人物になるというよりは難しく、興味深く、そして面白いもの



# 芸術祭に思う

村山吟友会 鈴木 忠彦

第五十二回

村山市芸術祭も盛會裡の内に閉幕しましたが、この時期になりますと何時も思うことがあります。

あまりにも極端な言い方ですが、芸術とは人に見せるものなのかそれ



とも芸術に打ち込んでいる人だけが楽しむものなのかと。

吟友会の場合観客はゼロ、会員だけが一生懸命吟じ合って、与えられた芸術祭の日程を消化しているが、何か物足りなさを感ずるので。

他の団体の状況はよくわかりませんが、観客が多かったという団体はそう多くないのが実態ではないでしょうか。

芸術祭も半世紀を経過しており、マンネリ化しているように

思うのです。

たとえば、期間中の一日でもよいから各ジャンルが一同に会して発表するなどして市民の皆さんにアピールしてはどうでしょうか。

いま、どの団体も入会者が少なく先細りにあります。芸術祭を一人でも多くの皆さんに観て貰うことにより関心を持って貰えれば会員増にも繋がるような気がします。

簡単な事ではありませんが、芸術協としても観せる工夫、観て貰える工夫など何らかの手を打つ必要がある時期に来ているように思うのですが。

# 和楽器が織り成す優雅な調べ

村山三曲協会 鈴木 市子

今年度の三曲協会は、お琴と尺八と三味線だけでなく、色々な出会いがありこれまでとはひと味違った演奏会を経験した年になりました。

外部における演奏活動として、九月の楯岡地区敬老会では茶道連盟さんとのコラボで、お琴と尺八の茶音頭の曲に合わせてお茶を点てるという、お作法との息もバッチリ合い素晴らしい出

来映えになりました。市民会館で行われた敬老会にご参加の皆様は楽しんでいただけたのではないのでしょうか。

それから十一月の芸術祭では、初のヴァイオリンとのコラボで、邦楽と洋楽の相性も良く、琴の音色にヴァイオリンがアクセントを加え、これもまた聞きごたえのある演奏になりました。

総会は毎年三月に初音合わせ

という事でお弾き初め会をして懇親を深めております。今後も日本の伝統音楽の素晴らしさをわかっていただき、若い方々や今まで興味関心のあまりなかった方々にも親しんでもらい楽しんでいただくと思います。



# 謡曲の活動と現況

村山市謡曲連盟 長岡孝二



私達謡曲連盟の活動は、市芸術祭の発表会その他、県内の素謡会の発表会に賛助出演をしたりしています。謡曲とは「うたい」などとも言われ、能の舞、はやし、狂言を抜いた歌の部分の台本になっておられます。謡の音譜には、上音、中音、下音、又ツヨ吟、ヨワ吟等があり、和の音の楽しみが凝縮されているように思います。謡の練習は、テープを聞きながら一人でも出来ますが、師範の先生に付いて謡を

聞き、オウム返しのように声を出す習い方が一般的です。喜謡会では週に一回夜に先生の所で練習しています。

私が謡曲を習い始めた頃は二十人位で習っていました。今は七人で練習しています。昨年の発表会では東根と尾花沢の人達にも出演をお願いし、発表会をすることができました。

今、謡曲連盟が抱えている課題は、会員の高齢化と入会する人が少ないということですね。会員の増員には努力はしているものの、簡単ではありませんが、一人でも多くの方が入会出来るように努力していくつもりでおります。

# 三味線・民謡正徳会 三十周年記念発表会

三味線民謡正徳会 三山 徳昭

日頃より芸文協関係者の皆様には、正徳会の活動に多大なるご協力をいただき、誠にありがとうございます。

さて、平成二十九年度はいよいよ私達正徳会にとって最大のイベントとなる「三十周年記念発表会」が村山市民会館を会場にして十月二十九日に開催されます。

発表会が一番の見所ですが、やはり津軽三味線の大合奏です。当会の流派である「貢正流」の仲間の応援も得て、二〇一三〇名の津軽三味線大合奏を予定しており、県内では勿論のこと、全国的にもなかなか見られないものをお見せできると自負しております。

また、津軽民謡の本場である青森の唄い手さんや、貢正流の宗家・家元先生をはじめ、県内外から多数のゲストを招き、一流の唄や踊りを揃えたプログラムを準備しております。

昨今、民謡会でも高齢化等々により大々的に発表会を行わない会が増えてきていま

す。また、テレビやラジオでも民謡を扱う番組が減少し、なかなか民謡を耳にする機会が減ってきています。

素晴らしい唄・民謡を後世に唄い継いでいくためにも、一流のステージを作り上げて皆さんに聴いていただき、楽しんでいただくことが当会の発展、ひいては民謡の発展に繋がっていくのではないかと考えています。

現在、会主を中心に舞台構成を練り、会員一同、日々練習に励んでいます。是非、迫力の生の大合奏を見に会場へお越しください。



# 芸術文化功労者を表彰



村山市芸術祭開幕式の席上、平成28年度芸術文化功労者が表彰されました。誠にありがとうございます。(10月27日市民会館)

## 【功労章】

若柳朋二三(楯岡・日本舞踊若三三会)

村山市立楯岡小学校アンサンブル部

||平成二十七年全日本アンサンブルコンテスト 第四十三回東北大会 銀賞

菅原 美楓(戸沢・書道会)

||平成二十七年全度改組第二回日展 入選

内山 初子(楯岡・社会音楽連盟)

森谷 悠子(楯岡・社会音楽連盟)

齊藤 孝行(尾花沢市・劇団赤ひげ)

坂木 良一(尾花沢市・劇団赤ひげ)

井澤 主子(戸沢・大正琴連盟)

平山 龍一(大倉・杉島諏訪太鼓保存会)

## 【感謝状】

井澤 主子(戸沢・大正琴連盟)

橋岡小学校アンサンブル部 二年連続  
「全日本アンサンブルコンテスト東北大会」出場

平成二十八年度全日本アンサンブルコンテスト第四十四回東北大会に、橋岡小学校アンサンブル部が出場し銅賞を受賞しました。東北大会出場は、昨年度に引き続き二年連続です。

今年度は、五年生の岩崎真央さん（Fp）、佐藤日和さん（Hr）、高橋仁子さん（Tr）、高橋さくらさん（Tt）と四年生の佐藤凛さん（Dp）、柴田楓香さん（Hr）による金管六重奏でT・スザート作曲「舞曲集よりモール人の踊り、

戦い」を演奏しました。

部の活動は、六月頃から九月までは月二回ほどで基礎練習を行います。十月にチームを編成し、本格的な練習に入ってから週二回から三回、社会音楽連盟の北村山吹奏楽団やジャスコオーケストラ・セレクション所属の方々の指導のもと練習を重ね、その努力の成果が二年連続東北大会出場につながりました。

顧問の菊地友則先生は、「アンサンブル部は今後も地域の力を結集して、子どもた

ちに芸術、文化の花を伝えていくひとつの機会であればと思います。来年度は、三年連続東北大会出場目指してがんばります。」と抱負を語ってくれました。今後の活躍が楽しみです。



注目!

エッセイスト  
イラストレーター きくちちいまま さん

『きもの生活のススメ』  
こんにちは、きくちちいままです。  
わたしはほぼ毎日きものを着て暮らしています。よく聞かれるのが「今日はなにかあるんですか?」……いいえ、特に何もありません。好きで着ているだけです。きものはファッションのひとつ。難しく考えることはありません。きものをふだん着にすることで、いつもの景色が色濃く見えるような気がしたり、季節の移り変わりにふと気付くようなことが増えたりしたら、とてもすてきなことだと思えます。いつものところに、あえてきもので行く楽しさ。だれかに「いいわね」と褒められる嬉しさ。自分の中に、一本芯が入ったような気持ちになる清々しさ。きれいに着ようとがんばりすぎず、まじめに着なきゃと気負いすぎず、堂々と、楽しく、まずは羽織ってみませんか。ゆっくり、一緒に楽しんでいきましょう。きものを楽しむすべての人に、心からエールを送ります。

プロフィール

一九七三年山形県生まれ  
大学を卒業後、東京・日本橋にある着物の広告・雑誌の会社にコピーライターとして入社。  
一九九九年、フリーのライター、イラストレーターとして独立。イラストとエッセイを組み合わせた作風で、着物ライフや日々の暮らしなどを綴る。執筆の他、着物や帯などのプロデュースも手がける。家では三世同居で三児の母。よほどのことがない限り、ほぼ一年中着物で過ごしている。村山市在住。



平成二十八年度  
村山市芸文協のうごき

4・19	会計監査
4・28	三役幹事会・理事会
5・16	三役幹事会
5・26	総会
5・28	県芸文協会総会
7・19	三役幹事会
7・28	理事会
9・22	山形交響楽団ユアタ ウンコンサート村山 公演（後援）
10・3	芸術文化功労者選考 委員会
10・19	県美展子ども県展村 山巡回展（後援）
10・27	村山市芸術祭開幕 式・功労者表彰式
10・29	森山良子コンサート （後援）
11・25	三役幹事会
12・11	シンボル事業「家田 莊子氏講演会」
12・19	北村山芸文協懇談会 （大石田町）
12・20	市芸術祭反省会
1・16	芸文だより編集委員 会
2・4	千住真理子ヴァイオ リン・リサイタル （後援）

あとがき

ものぐさな私は、よく二、三m先のごみ箱に物を投げ入れる。当然、うまくごみ箱内にゴミが入ることもあれば、入らないこともあるのだが、最近うまく入る割合が多くなってきた。年とともに運動能力が低下するものだが、軽運動精度は向上すると勝手に思っている。

そういえば、輪投げやグラウンドゴルフで好成绩をあげている人には、高齢者が結構いる。ましてや芸術文化活動は、歳を取ったと嘆く必要はないであろう。

年齢と共に向上するものもあると前向きに考え、各自の活動に取り組んでいきましょう。（編集委員長 秋生悦雄）

芸文だより編集委員

- 秋生悦雄 (村山吟友会)
- 吉田峻太郎 (劇団赤ひげ)
- 長岡孝二 (村山市謡曲連盟)
- 鈴木慶華 (村山三曲協会)
- 星川英子 (三味線民謡 正徳会)
- 堀澄雄 (村山フォトクラブ)